



## スペイン日本語教師会セミナー2011

**2011年6月25日（土）、国際交流基金マドリード文化センターでスペイン日本語教師会セミナー2011**が行われた。今回は会員34名と非会員3名の参加となった。セミナーのテーマは「文字・漢字を教える」。国際交流基金ハンガリー・ブダペスト日本文化センターの境田徹先生をはじめに、いろいろな先生をお迎えして仮名や漢字への取り組みや教え方についてお話しいただいた。また、午後には境田先生と熊野先生による漢字教育ワークショップも行われた。

### 基調講演

**境田徹先生**  
馬場加恵、大石恵

試行錯誤の文字教育。指導の効果を見るのに時間がかかるのも頭痛の種

だ。そんな悩み多き教師にとって、文字教育のひとつの指針になる講演だった。

まず、日本の学校教育にも言及しながら、日本語教育における文字教育の捉え方を確認した上で、「ひらがな、カタカナの教育」に進んだ。「読める」、「書ける」を学習目標とし、導入、練習方法と指導のポイントをご教授くださった。

難関の「漢字教育」については、学習者の多様性、学習時間、漢字にふれる時間が限定的なことを考慮しながら、前提になる情報を整理し、本当に漢字学習が必要か、必要であれば目的は何か、その目的達成のために必要な技能は何かをはっきりさせた上でロー



ドマップとも呼べる学習計画を立て、それを生徒と共有するというステップをわかりやすく説明してくださいました。

また、効果的な教師の関与について、初期段階では、漢字の特性、ルールなどを理解するために教師の関与が高いが、ロードマップを活用し、徐々に自立学習へと導くように持つていく必要性について説かれた。

さらに、長く記憶に残すために、印象的な導入を行う、既知漢字を利用して、漢字をグループ化して整理する、親しみのもてる語例を使用するなど、漢字指導に関するポイントを述べられた。

参考資料として添付くださったご自作の資料は日本語教師必携と言える。



スペイン日本語教師会ホームページ  
日本語関係のニュース、教師会フォーラム、教師の知恵袋など役に立つ情報が満載！

<http://apje.es/> E-mail: [apje.info@gmail.com](mailto:apje.info@gmail.com)



## 文字・漢字教育の取り組み

加藤さやか(1, 2)、小島妙子(3, 4)  
田寺由香(5, 6)

### 1. 漢字教育法について

白石実先生

日本語を学ぶ中で、漢字は苦勞のタネというスペイン人学習者は少なくないようです。教える側としても、何か効果的な教授方法はないものか、試行錯誤している教師は多いのではないのでしょうか。

今回、「漢字教授法というより学習法ですね」というお言葉で始まった白石先生の発表は、一貫して学習者主体の目線、「どう教えるか」というより「どのように学習したらよいか」という見方に立って展開され、多くの参加者が興味を持って傾聴しました。

まず、なぜそれほど漢字の習得が困難なのか、その原因に目を向け、学習者が日本文化と全く異質の文化圏で生きてきていることを教師が認識することの大切さが指摘されました。生まれ育った文化圏が異なれば、当然所有する知識や経験も異なってくるわけで、そんな彼らの目に映るKANJIは、日本人のそれから見た漢字とは全く別物である。結果、彼らにとって、漢字を知っているということと読みとは別の知識のチップであり、現行の漢字の日本文化的揭示順序による学習は往々にして苦行になってしまっている現状が提示されました。

こうした日本人と非漢字文化圏学習者の漢字に対する認識のズレを踏まえた上で、次にアプローチの一方法として、漢字を書記素化する方法が取り上げられました。漢字の構成要素を24の書記素に分類し、それぞれにアルファベットコードを振って体系的に表すものです。日本人からすると、かえってややこしいようにも見えるこの方法が、非漢字圏の学習者には造型要素の認識を容易にす

る効果があるとのことで、あらためて漢字の「見え方」の違いが顕著になりました。

最後に、同方法の課題点も触れられつつ、教師が学習者の持つ言語知識の側に立って漢字学習を捉え直す必要性が強調され結びとなりました。

豊富な学習指導経験に基づいた内容は説得力があり、メリハリある展開で分かりやすく、「勉強になった」「今後の漢字指導の参考になった」と思われた参加者も多かったのではないのでしょうか。

### 2. Kanji para hispanohablantes: Peculiaridades, métodos y consejos pedagógicos prácticos

Francisco Barberán先生

「スペイン語話者にとっての漢字」ということで、自らの学習経験に基づき、スペイン人の視点から見た漢字学習にまつわる問題点とそれらの解決方法について語られました。

「大人になってから日本語の勉強を始めて漢字を学び始める西洋人と、幼少時から日本語に囲まれて育って小学生で漢字を学び始める日本の子どもとは、スタート時点からして異なる。よってその学習方法も異なるべきである。」

以上のような立場に立って、ベルバラン先生は、ご自身の教師としての経験から、漢字を覚えるに当たりスペイン人学習者が特に苦勞しているのは、音読みと、そして200~300字学んだところでぶつかる類似した形の漢字の多さだと指摘され、それらの苦勞を少しでも軽減するための工夫、効率的な学習の順序、暗記のコツなどを紹介されました。

スペイン人の視点から考え出された工夫やアイデアに参加者は関心を寄せて聞き入りました。とかく学習者個人の努力に任されがちな漢字学習ですが、漢字自体の学習に

入る前にきちんと理論的なイントロダクションを行うことの大切さや部首による掲出順序の工夫など、教師次第の部分についても言及があり、今後の授業に生かすべく気持ちを新たにした参加者も多かったと思われます。

### 3. E-learning教室における漢字学習

大槻岳子先生

カタルーニャ公開大学(UOC)ではインターネットを使つての(E-learning)日本語教育が行われており、学習者の自宅に届く印刷教材、そ



してパソコン上で学習できるウェブ教材の2つによって、複合的に学習ができるようになっている。E-learningの漢字学習の問題

としては、学生の学習プロセスがわからない、書く練習ができない、練習記録が残らないということがあげられるが、UOCでは書き順アニメ、ゲーム性を持たせるために間違い回数を記録できるなど、漢字学習ツールの開発が行われており、完成すれば画期的なツールになるとの報告があった。

### 4. 読む技能を伸ばすための漢字指導(CEFR初級編)

野崎美香先生

A1, A2レベルの学生にとっては、漢字を理解する事(漢字の意味、理解)については「読む技能」、漢字

の使用については「書く技能」、と一口に漢字指導と言っても別々に目的に応じた指導をしなければならぬとおっしゃるのは、EOI A Coruñaの野崎美香先生。



例えば漢字理解についてはA1、A2レベルであっても、ポスターやカタログ、メニューなどのレアリアを使って必要な語彙を生徒と一緒に探

すなど十分にできる活動がある。読解のための漢字学習は漢字を読む技能を問うよりも、意味理解を深めることが大切だということだった。

## 5. ひらがな・カタカナカード

原加奈子先生

日本語学習者の最初の難関と言つてよいひらがな・カタカナですが、数が多く、似ている文字もあり、教師がただ単に形と書き順を教えただけでは、身に付くまでに時間がかかることもしばしば。学習者にとって全部を覚えるのは本当に大変な作業です。



そこで原先生はひらがなを文字としてではなく、絵として印象づけて覚えるための自作のカードを披露して下さいました。ひらがなを一つの絵と見立て、さらにスペイン語との語呂合わせで覚えるというこの工夫によって、ひらがな学習の成果にも変化が見られたことを発表して下さいました。

さらにカタカナについては、これからアイデアを募って、みんなで教材を共有できるホームページを作っていく予定、という耳寄りな情報も頂きました。

原先生の何とか早く、そして楽しく学習者にひらがな・カタカナを身につけてもらいたい、という熱意が伝わってくるお話でした。

## 6. El aprendizaje de los kanji para los hispanohablantes

Marc Bernabéさん

ネイティブの日本語教師から見ると、漢字は文字であり、覚えるためには、ただひたすら漢字を書いたり読んだりするしかないのでは？と思いがちです。

では、日本語学習者、特に非漢字圏であるスペイン語を話す学習者にとっても同じことが言えるのでしょうか。

ご自身も日本語を勉強した経験をお持ちのベルナベ先生は、ネイティブとノンネイティブでは、漢字の認識の仕方が違うということをご指摘された上で、学習者の視点から漢字を覚えるためのアイデアを提供して下さいました。

先生の著書や翻訳された本から、漢字をパーツごとに分解し、それぞれに名前をつけ、その組み合わせで一つの漢字を覚える方法や、漢字ごとにストーリーをつけたり、まんがを通して覚えたりする方法などを紹介して下さい、一般にネイティブがあまり考えつかないような思い切ったイメージ法が、時には有効な手段になる、ということを知ることができました。

固定観念にとらわれず、学習者にとって何が一番良い方法なのかを見極めることの大切さを教えて頂きました。



## 漢字教育ワークショップ①

境田徹先生・熊野七絵先生

桜井悦子①、吉本由江②

まず境田先生の問題提起は「漢字イントロダクションの授業をせずに授業をし続けた場合、学習者は漢字および漢字学習に対してどのようなことを疑問に感じるとおもいますか」。

これに対して先生方がこれまでに受けた漢字に関する生徒からの質問が挙げられた。



1. 漢字はいつできたか？
  2. 一体これから勉強する漢字は全部で何字？
  3. 漢字はどういう場合に使われるのか。(かなとの使い分け)
  4. 漢字を使わずに書いてもOK？
  5. 書き順通りに書かなくてはダメ？
  6. 何字漢字を覚えれば普通レベルの読み物が読める？
  7. 中国語の漢字と日本語の漢字は同じ？
  8. どういうときに音読みをしてどういうときに訓読みをする？
  9. 世界のどの国で漢字を使っている？
  10. 日本の子どもはどうやってこんなにたくさんある漢字を覚えている？
- ...などなど、心当たりのあるものばかり。

そこで境田先生の次なる問題提起は上記リストの中から「自分の学習者に漢字イントロダクションの授業でふれたらよい項目を整理し、その理解のためにどのような説明・活動をするか考えよう」というもの。

1. 漢字はどういうときに使うのか？という疑問に対して境田先生のアイデアは...

生徒がすでに学習している構文例えば“わたしは にほんごの がくせい です”の文をいきなり漢字混じり文で提出して読ませる。“私は日本語の学生です”。もちろん学生は漢字部分はまだ読めないで“？は？の？です”という事態が発生。その後ひらがな文を提出しどの部分で漢字が使われているのか？について気づかせる、というもの。なるほど！

2. どうして一つの漢字に音読みと訓読みがあるのか？日本と中国の歴史に深いかわりにふれて説明する。

3. 基本の書き順に関しては、境田先生、他の多くの先生方ははじめ

の授業で必ず筆を使って説明する、とコメント。筆では、とめ、はね、はらいなど漢字の基本がよく分かるからだ。

4. 漢字を使わなくても大丈夫？ という生徒の質問に対しては、境田先生ははじめの授業で必ず日本の新聞を見せて、日本語の文字表現の姿を学生に見せるそうだ。これを実践している先生方は多数いらっしゃる模様。



漢字イントロを済ませた後、次なる課題は基本漢字を定着させるため、どんな活動をしたらよいか？という問題提起。

境田先生のクラスでは1回5字で1週間で10字ずつ進む。その週に習った漢字10字のパネルシートを作り、それぞれの漢字を使ったことばを作って確認。次の週のクラスの初めの2分で前回のパネルの復習をさっとしてその日の授業に入るそうだ。

他のアイデアとしては、

- その日の漢字（一回三字）を習ったあと、その漢字を使ったことばを入れた文章の書き取りをする。文章は二つか三つ。しかし毎回行っていく。こうすると文の中でその漢字がどう使われているかが把握でき、ひらがな・かたかなの復習にもなる。
- 漢字カルタを作って遊ぶ。この中に

間違えた漢字も混ぜておく。

- 部首カルタを使って漢字を組み合わせて遊ぶ。
- 習った漢字を使った作文。（例えば家族に関する漢字習得のあとで、自分の家族についての短い作文を書かせる）

• 読み方の定着のためのペアワーク。Aシートの偶数文はふりがな入り、Bシートの奇数文はふりがな入りにしておき、AとBの生徒が正しい読み方の教えあいをする。などなど...

このへんで終わりますが、境田先生が強調された三点は、

- (1) 漢字の道は楽しいものでなければならない
- (2) 学習者の興味に近づく
- (3) スペインの学習者にあわせたやり方を探していく



### 漢字教育ワークショップ②

続いて境田先生と熊野先生によって行われたワークショップの後半では、基本漢字を定着させるための授業活動と家庭学習のグループ案が発表さ

れ、境田先生から具体的な活動の提案もあった。その後、ワークショップは、JF Can-do の「書く」活動をアレンジし、新出の漢字に考慮しながら「なぞり書き」モデルとなる文章を作成するワークに移り、グループからバリエーションに富んだモデルが発表された。

### アンケートの結果 ミニダイジェスト

I. 今回のセミナーは、全体的にいかがでしたか。(24人回答)

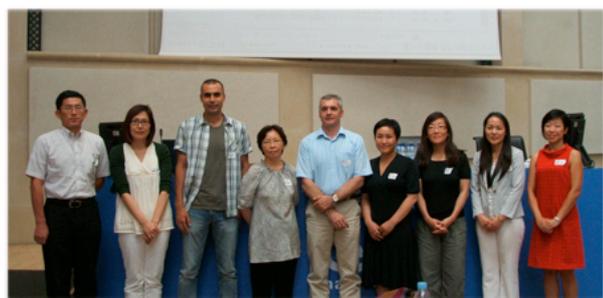
とてもよかった 18  
まあまあよかった 6  
あまりよくなかった 0  
よくなかった 0

II. 内容について

- (1) 基調講演 (21人回答)  
とてもよかった 13  
まあまあよかった 7  
あまりよくなかった 1  
よくなかった 0
- (2) 発表 (20人回答)  
とてもよかった 15  
まあまあよかった 4  
あまりよくなかった 1  
よくなかった 0
- (3) ワークショップ (25人回答)  
とてもよかった 17  
まあまあよかった 8  
あまりよくなかった 0  
よくなかった 0

III. 今後どのようなテーマや内容の研修会等を希望しますか。

- 評価、翻訳（日西、西日）、会話
- リスニング
- 言語行動に表れる文化の違い
- 歌を使って日本語を教える
- 会話、コミュニケーション
- 丁寧な話し方からくだけた話し方を教える教え方
- 個人レッスンの教授法



左から（敬称略）境田徹、野崎美香、Marc Bernabé、白石実、Francisco Barberán、原加奈子、大槻岳子、熊野七絵、藤野華子



### お礼

今回ニュースレターの執筆に協力してくださった馬場加恵さん、大石恵さん、加藤さやかさん、小島妙子さん、田寺由香さん、桜井悦子さん、吉本由江さん、カメラ係を引き受けてくださった江崎美保子さん、雑務全般で手伝ってくださったHugo Lázaroさん、その他の皆さんに心からお礼を申し上げます！（藤野）